

数 学

8 数 学

注 意

- 1 問題は から までで、5 ページにわたって印刷してあります。
また、解答用紙は両面に印刷してあります。
- 2 検査時間は 50 分で、終わりは午前 11 時 00 分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 計算が必要なときは、この問題用紙の余白を利用しなさい。
- 5 答えは全て解答用紙に HB 又は B の鉛筆(シャープペンシルも可)を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 6 答えに分数が含まれるときは、**それ以上約分できない形で表しなさい。**
例えば、 $\frac{6}{8}$ と答えるのではなく、 $\frac{3}{4}$ と答えます。
- 7 答えに根号が含まれるときは、**根号の中を最も小さい自然数にしなさい。**
例えば、 $3\sqrt{8}$ と答えるのではなく、 $6\sqrt{2}$ と答えます。
- 8 答えを選択する問題については、**特別の指示のあるもののほかは、各問の ア・イ・ウ・エのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。**
- 9 の中の数字を答える問題については、「あ、い、う、…」に当てはまる数字を、下の[例]のように、0 から 9 までの数字のうちから、それぞれ一つずつ選んで、**その数字の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。**
- 10 答えを記述する問題(答えを選択する問題、 の中の数字を答える問題以外のもの)については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 11 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 12 **受検番号**を解答用紙の表面と裏面の決められた欄に書き、表面については、**その数字の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。**
- 13 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

[例] に 12 と答えるとき

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| い | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

問題は1ページからです。

1 次の各問に答えよ。

[問1] $8 + \frac{1}{4} \times (-6^2)$ を計算せよ。

$$(1) 8 + \frac{1}{4} \times (-36) = -1$$

[問2] $\frac{a+2b}{3} - \frac{7a-b}{9}$ を計算せよ。

$$(2) \frac{1}{9}(3a+6b-7a+b) = \frac{-4a+7b}{9}$$

[問3] $(1-\sqrt{5})^2$ を計算せよ。

$$(3) 1 + 5 - 2\sqrt{5} = 6 - 2\sqrt{5}$$

[問4] 一次方程式 $7x+6=2x-9$ を解け。

$$(4) 5x = -15 \Rightarrow x = -3$$

[問5] 連立方程式 $\begin{cases} x+3y=1 \\ 2x+5y=4 \end{cases}$ を解け。

$$(5) 2x+6y=2$$

$$-) 2x+5y=4$$

$$y = -2, x = 7$$

[問6] 二次方程式 $x^2+7x-8=0$ を解け。

$$(6) (x+8)(x-1)=0 \Rightarrow x=-8, 1$$

[問7] 右の表は、ある中学校の生徒100人の通学時間を調査し、度数分布表に整理したものである。

15分以上20分未満の階級までの累積相対度数を、次のア～エのうちから選び、記号で答えよ。

| 階級(分) | | 度数(人) |
|-------|----|-------|
| 以上 | 未満 | |
| 0 ~ | 5 | 4 |
| 5 ~ | 10 | 15 |
| 10 ~ | 15 | 28 |
| 15 ~ | 20 | 21 |
| 20 ~ | 25 | 16 |
| 25 ~ | 30 | 9 |
| 30 ~ | 35 | 7 |
| 計 | | 100 |

ア 0.21 イ 0.32 ウ 0.47 **エ 0.68**

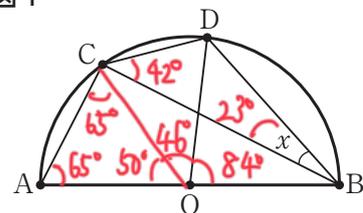
[問8] 次の の中の「あ」「い」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

右の図1で、点Oは、線分ABを直径とする半円の中心である。

図1

点Cは、 \widehat{AB} 上にある点で、点A、点Bのいずれにも一致しない。

点Dは、 \widehat{BC} 上にある点で、点B、点Cのいずれにも一致しない。



点Oと点D、点Aと点C、点Bと点C、点Bと点D、点Cと点Dをそれぞれ結ぶ。

$\angle BAC = 65^\circ$, $\angle BCD = 42^\circ$ のとき、 x で示した $\angle CBD$ の大きさは、 度である。

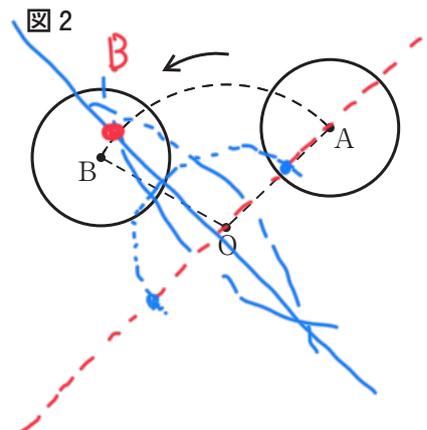
23

[問9] 右の図2で、円Bは、円Aを点Oを中心として反時計回り(矢印の方向)に回転移動させたものである。

図2

解答欄に示した図をもとにして、円Aを、点Oを中心として反時計回りに 90° 回転移動させてできる円の中心Bを、定規とコンパスを用いて作図によって求め、点Bの位置を示す文字Bも書け。

ただし、作図に用いた線は消さないでおくこと。



2

Kさんのクラスでは、先生が示した問題をみんなで考えた。

次の各問に答えよ。

[先生が示した問題]

一の位の数 $\neq 0$ でない2けたの自然数Pについて、Pの十の位の数と一の位の数を入れかえてできる数をQとする。

PとQをたした値をR、Pの各位の数の和とQの各位の数の和をたした値をSとし、 $R - S$ の値を考える。

例えば、 $P = 71$ のとき、 $Q = 17$ であり、 $R = 71 + 17 = 88$ 、 $S = (7 + 1) + (1 + 7) = 16$ となる。このとき、 $R - S = 88 - 16 = 72$ である。

Pの各位の数の和が10のとき、 $R - S$ の値を求めなさい。

[問1] 次の の中の「う」「え」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

[先生が示した問題] で、Pの各位の数の和が10のとき、

$R - S$ の値は である。

90

たとえば $P = 46$ とすると

$$R - S = (46 + 64) - (4 + 6 + 6 + 4) = 90$$

Kさんのグループは、[先生が示した問題] をもとにして、次の問題を作った。

[Kさんのグループが作った問題]

一の位の数 $\neq 0$ でない3けたの自然数Xについて、Xの百の位の数と一の位の数を入れかえてできる数をYとする。

XとYをたした値をZ、Xの各位の数の和とYの各位の数の和をたした値をWとし、 $Z - W$ の値を考える。

例えば、 $X = 142$ のとき、 $Y = 241$ であり、 $Z = 142 + 241 = 383$ 、 $W = (1 + 4 + 2) + (2 + 4 + 1) = 14$ となる。このとき、 $Z - W = 383 - 14 = 369$ であり、9の倍数となる。

また、 $X = 513$ のとき、 $Y = 315$ であり、 $Z = 513 + 315 = 828$ 、 $W = (5 + 1 + 3) + (3 + 1 + 5) = 18$ となる。このとき、 $Z - W = 828 - 18 = 810$ であり、9の倍数となる。

一の位の数 $\neq 0$ でない3けたの自然数Xについて、 $Z - W$ の値が9の倍数となることを確かめてみよう。

[問2] [Kさんのグループが作った問題] で、一の位の数 $\neq 0$ でない3けたの自然数Xについて、Xの百の位の数 a 、十の位の数 b 、一の位の数 c とし、X、Yをそれぞれ a 、 b 、 c を用いた式で表し、 $Z - W$ の値が9の倍数となることを証明せよ。

$$X = 100a + 10b + c$$

$$Y = 100c + 10b + a$$

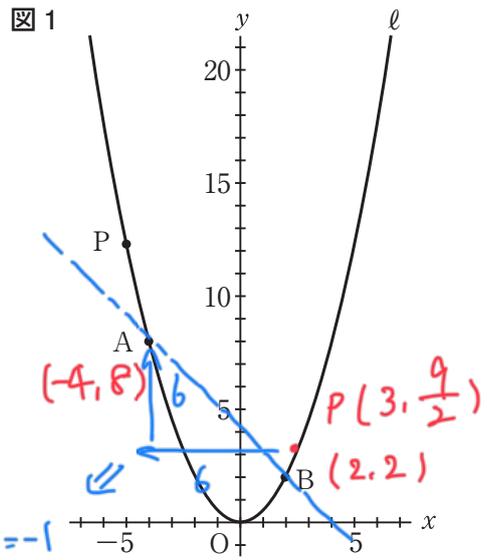
$$\begin{aligned} Z &= X + Y \\ &= 101a + 20b + 101c \end{aligned}$$

$$W = 2a + 2b + 2c$$

$$\begin{aligned} Z - W &= 99a + 18b + 99c \\ &= 9(11a + 2b + 11c) \end{aligned}$$

$\therefore 9$ の倍数

3 右の図1で、点Oは原点、曲線ℓは関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ のグラフを表している。
 点A、点Bはともに曲線ℓ上にあり、
 x 座標はそれぞれ-4、2である。
 曲線ℓ上にある点をPとする。
 次の各問に答えよ。



[問1] 次の ① と ② に当てはまる数を、
 下のア~クのうちからそれぞれ選び、
 記号で答えよ。
 点Pの y 座標を a とする。
 点Pが点Aから点Bまで動くとき、
 a のとる値の範囲は、
 ① $\leq a \leq$ ②
 である。 0 8

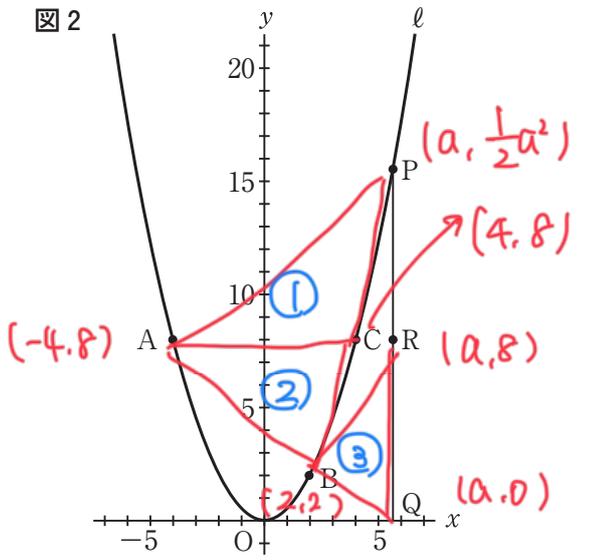
傾き=-1
 ↓
 点Pから左に3、下に3 行った=3が
 7/11に等しい

- ア -8 イ -4 ウ -2 エ 0
 オ 2 カ 4 キ 8 ク 16

[問2] 点Pの x 座標が3のとき、点Pを通り、2点A、Bを結んでできる線分と平行になる直線の式を、次のア~エのうちから選び、記号で答えよ。

- ア $y = -x + 4$ **イ** $y = -x + \frac{15}{2}$ ウ $y = -\frac{1}{2}x + 4$ エ $y = -\frac{1}{2}x + \frac{15}{2}$

[問3] 右の図2は、図1において、点Pの x 座標が4より大きい数のとき、 y 軸を対称の軸として点Aと線対称な点をCとし、点Pを通り y 軸に平行な直線を引き、 x 軸との交点をQ、線分PQ上にあり y 座標が点Aの y 座標と等しい点をRとした場合を表している。
 点Aと点B、点Aと点P、点Bと点C、点Bと点Q、点Bと点R、点Cと点Pをそれぞれ結んだ場合を考える。
 四角形ABCPの面積が△BQRの面積の4倍になるとき、点Pの x 座標を求めよ。



①+② = 4×③
 ①: $\frac{1}{2} \times 8 \times (\frac{1}{2}a^2 - 8)$
 ②: $\frac{1}{2} \times 8 \times 6$ — 3 — ⇒
 ③: $\frac{1}{2} \times 8 \times (a-2)$

$\frac{1}{2}a^2 - 8 + 6 = 4(a-2)$
 $a^2 - 8a + 12 = 0$
 $(a-2)(a-6) = 0$ $a > 4$ ∴ $a = 6$

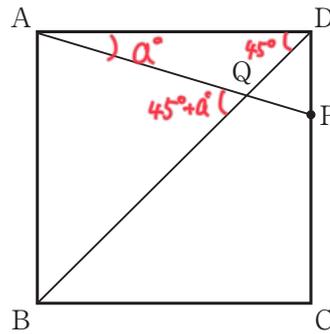
4 右の図1で、四角形ABCDは正方形である。

点Pは、辺CD上にある点で、頂点C、頂点Dのいずれにも一致しない。

頂点Aと点P、頂点Bと頂点Dをそれぞれ結び、線分APと線分BDとの交点をQとする。

次の各問に答えよ。

図1



[問1] 図1において、 $\angle DAP = a^\circ$ とするとき、 $\angle BQP$ の大きさを表す式を、次のア～エのうちから選び、記号で答えよ。

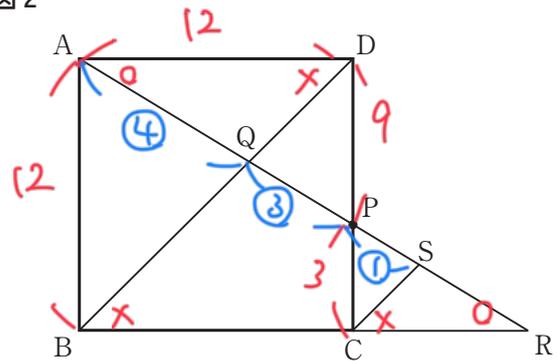
- ア (135 - a) 度 イ (120 - a) 度 ウ (60 + a) 度 エ (45 + a) 度

$$\angle BQP = 180 - (45 + a) = 135 - a$$

[問2] 右の図2は、図1において、線分APをPの方向に延ばした直線と、辺BCをCの方向に延ばした直線との交点をR、頂点Cを通り線分BDに平行な直線を引き、線分PRとの交点をSとした場合を表している。

次の①、②に答えよ。

図2



① $\triangle AQD \sim \triangle RSC$ であることを証明せよ。

$$\angle DAQ = \angle CRS, \angle ADB = \angle CBD = \angle RCS, \therefore \sim$$

② 次の の中の「お」「か」「き」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

AB = 12 cm, CP = 3 cm のとき、線分PSの長さは $\frac{\text{おか}}{\text{き}}$ cm である。

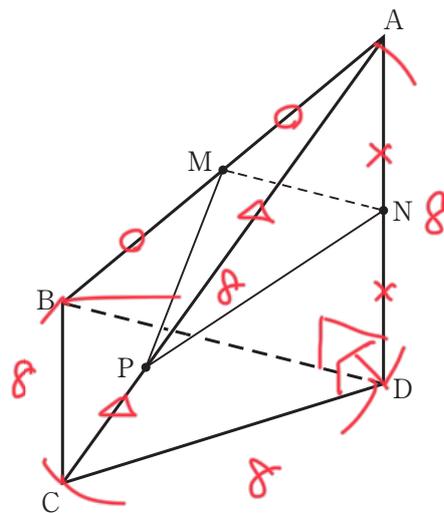
$$AP = \sqrt{12^2 + 9^2} = 15$$

$$\frac{15}{7}$$

$$PS = 15 \times \frac{1}{7} = \frac{15}{7}$$

- 5 右の図1に示した立体A-BCDは、
 $AD=BC=BD=CD=8\text{ cm}$ 、
 $\angle ADB=\angle ADC=90^\circ$ の三角すいである。
 辺ABの中点をM、辺ADの中点をNとする。
 辺AC上にある点をPとし、
 点Mと点N、点Mと点P、点Nと点Pをそれぞれ結ぶ。
 次の各問に答えよ。

図1



[問1] 次の□の中の「く」「け」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

図1において、 $PN \parallel CD$ となるとき、
 $\triangle MPN$ の内角である $\angle MPN$ の大きさは□く度である。

中点連結定理: $BC = \frac{1}{2}MP, CD = \frac{1}{2}PN, BD = \frac{1}{2}MN$

$BC=CD=BD=8(\text{cm})$

$\triangle MPN$ は正三角形

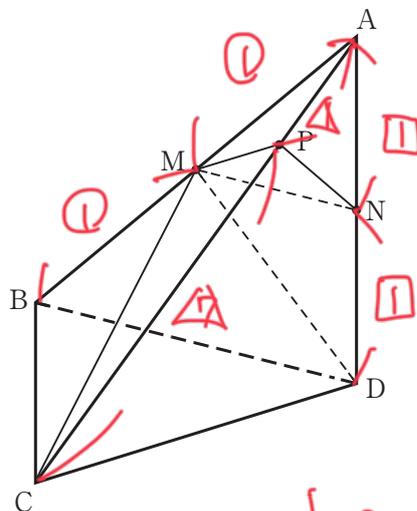
$\therefore 60^\circ$

[問2] 次の□の中の「こ」「さ」「し」に当てはまる数字をそれぞれ答えよ。

右の図2は、図1において、頂点Cと点M、
 頂点Dと点Mをそれぞれ結んだ場合を表している。

$PC=7AP$ のとき、立体M-CDNPの体積は
 □こ $\sqrt{\square}$ □し cm^3 である。

図2



M-CDNP は三角すいA-BCDから
 三角すいA-MPNとB-MCDを
 切ったもの

$$A-BCD: A-MPN = 2 \times 8 \times 2 : 1 \times 1 \times 1 = 32 : 1$$

$$A-BCD: B-MCD = 2 \times 1 \times 1 : 1 \times 1 \times 1 = 2 : 1$$

$$A-BCD: A-MPN : B-MCD = 32 : 1 : 16$$

$$\therefore A-BCD: M-CDNP = 32 : 15$$

$$\triangle BCD = \frac{1}{2} \cdot 8 \cdot 4\sqrt{3} = 16\sqrt{3}$$

$$A-BCD = \frac{1}{3} \cdot 16\sqrt{3} \cdot 8$$

$$\begin{aligned} \therefore M-CDNP &= \frac{15}{32} \cdot \frac{1}{3} \cdot 16\sqrt{3} \cdot 8 \\ &= 20\sqrt{3} \end{aligned}$$